



システム構成図

説明は次ページをご覧ください

## ◆◆概要◆◆

発電取水を目的とする Low Dam(えん堤)は、運用の自動化が進み、各えん堤は単独自動制御方式で運用されています、今回のシステムを納入したユーザー様の標準仕様書では、えん堤の自動制御装置からダム管理所への運用情報は、「取水停止」と「設備故障」の2点だけのシンプルな構成でした、一方で、故障発生時や異常操作時に、その内容や運用履歴の情報が、現場に出向するまで無いため、対応に苦慮もしていました。

これらの運用情報の詳細を、ダム管理所に常時収集して、的確な判断と迅速な対応を行うと共にダム放流時は人間系の判断を介入させ、誤操作を防ぐことを目的としたシステムです。

システムの規模は、ダム管理所に設置された監視制御装置が12セットで、えん堤側の自動制御盤はその後ろも取替、改修が進行していますが、監視制御装置1セット当り40ヶ所の取水管理設備に対応できる容量を備えています。

## ◆◆特長◆◆

1. 監視制御装置の管理対象となる、取水管理設備の運用情報は、リアルタイムで収集、記録、保存されます、これらの保存データは時系列に溯って表示させることができます、又、帳票の作成、出力、印刷も可能です。
2. 故障、異常が発生した場合は、監視操作卓に警報表示してオペレータ・コールを行います。
3. 監視操作卓より、必要に応じて自動制御盤の設定値変更や、ゲートの遠隔手動操作が可能ですが、現在の運用方法は自動制御モードの強制変更のみ遠隔操作で行うことができます、又、ダム放流モードに移行する場合はオペレータ・コールで知らせ、運用担当者の許可があって初めて実行処理します。
4. 情報伝送路は私設メタル回線を使用していますが、一部を除き、十分な通信速度を確保して、順調に運用しています。